

研修会報告

第 1 回 「ノンテクニカル・スキルを磨いて 現場力向上」 (8月22日)

昨年度大好評でした、「ノンテクニカルスキル」セミナーを、今年度は更なるスキルアップ目指して、再度、早稲田大学創造理工学部の小松原明哲先生に來甲していただき開催しました。

前回同様、小松原先生のご講義は大変楽しく、わかりやすく、時間が過ぎるのも忘れて聞き入ってしまいました。先生は、ご講義の中で「医療や看護の場は、時間や場所も異なり、患者の容態も変化する。その時々々の状況にあった行動が求められ、常に応用問題の業務である。だから、どんな状況にあっても、対応できる実力を伸ばしていくことが求められる。変化する『状況に対応するレジリエンス能力を高めていく訓練』が必要である」と話されました。ポイントは、**気づく能力を高める訓練**。それには、KYTをもとに、『もし・・・だったら?』と、リスクを予見して分析し、対策を考える癖(習慣)をつけること。

GWでは、他の施設の参加者と共に、外来患者の受診時の危機管理の方法を考える演習をしました。

演習キーワードは「**ねちっこく**」とにかく「**ねちっこく!**」考えるでした。短い時間でしたが、明日から現場で活かせる研修でした。(渡辺久)



第 11 回大会のお知らせ

日時：2016年3月6日(日)
10時～15時30分(受付9時30分～)
場所：山梨県立大学 池田キャンパス 講堂

○ 特別講演

「医療安全—事故調査の難しさと仕組みの難しさ」

—医療事故調査制度が開始されて半年—

講師 樋口範雄氏 東京大学大学院法学政治学研究科教授
日本医療安全調査機構医療事故調査・支援事業運営委員会委員長

○ 総会 医療安全活動・実践報告(詳しくはHPをご覧ください)



めち子は医療安全を明るく行うツールです。
詳しくは、ホームページをご覧ください。

めち子に出来ること!

- ・スタッフの医療安全の基本の意識を高める
- ・スタッフへの医療安全指導・啓蒙活動を円滑化する
- ・インシデント・アクシデント時に、当事者がより反省し、後悔する
- ・当事者が反省・後悔後、ポジティブに医療安全に取り組める
- ・武田家ネタを深められる
- ・明るくポジティブな気持ちで事故に向き合えるようになる



専任リスクマネージャーの紹介 No.7

公益財団法人 山梨厚生会 山梨厚生病院
副看護部長/医療安全管理者 矢崎はる美

4月から医療安全管理者(専従)になりました。
院内からのインシデント報告・アクシデント報告をうけ、分析・対策と日々奮闘しています。

又、院内ラウンドを医療安全委員会・リスクマネージャー部会のメンバーと月に1~2回行い、室長ラウンドも行っています。業務にまだ慣れていませんが、全職員が5S・KYT・医療安全を意識できる環境を作り、アクシデント「0(ゼロ)」を目指して行きたいと思います。

研究会と共に
頑張りましょう!



第 2 回 医療安全の基本 「5S・KYTを学びなおす」

(9月26日)

今回は、昨年のアンケートを参考に、5SとKYTの研修を同日に実施しました。そのため、参加者のほとんどが2つの研修に参加していました。会場設定では、講義後のグループワークが円滑に行えるよう、別の教室にグループ別の机を用意したため、集中してディスカッションを行う環境が提供できました。

グループワーク後には、参加者から「自分の意見も皆に『そうだね』と言われ、他の意見にも納得が出来た」「日常の業務の中での気づきが大事と分かった」「他病院の様々な年齢の方からの意見を聞き、同じ事例でも様々なKYTがあると感じた」「看護師だけでなく、他職種の方も多く参加していて参考になった」等の感想が聞かれました。

また、初めての参加の方や介護現場に従事している方の参加が少しずつですが増えてきています。今後も5Sと共にKYTの研修を実施し、皆さんの期待に応えられるようにしたいと思います。(長田・古屋)



書評コーナー (第 1 回)

「ジョージの物語」 ソレル・キング著,2015
～小さな女の子の死が医療にもたらした大きな変化～

2001年1月、アメリカ・ボルティモアで幸せな日々を送っていた家庭に突然襲ってきた悲劇(我が子への医療事故)を被害者の母親が、どのような心理的葛藤を経て、悲嘆のどん底から“世界を変える50人の女性”に選ばれるほどの活動を進めてきたのかが、鮮明に描かれている。

「これは、一人の母親の喪失と再生の記録である」と表紙にあるが、医療安全を支えるのは人の思いであり、続けていく力だと痛烈に感じた。医療安全活動を考えるお奨めの一冊である。(藤森玲子)

